

2025年度

こども学科
講義計画集

— 第3学年 —

氏名

.....
船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話:047-425-1051
.....

3学年

本校の教育方針	1	
評価について／出欠席ルール	3	
FJBネットID登録とメールアドレス	4	
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	4	
個人情報保護に関する基本方針	5	
教育目標と検定スケジュール	6	
幼児と健康	向家 真広	7
音楽総合Ⅰ・Ⅱ	中川 菜穂・三田 麻矢佳・谷田 扶実子	8
子育て支援	南部 愛子	10
保育のためのパソコン技術	青木 耕大	11
保育・教職実践演習Ⅱ	三田 麻矢佳・中川 菜穂・津田 聡子	12
保育・教職実践演習Ⅲ	中川 菜穂・津田 聡子・三田 麻矢佳	13
保育実習事前事後指導応用	津田 聡子	14
卒業研究Ⅰ・Ⅱ	生越 雅志・青木 耕大・津田 聡子	15
現場学習応用	中川 菜穂・津田 聡子・三田 麻矢佳	17
子どもの保健応用	渡邊 寿代	18
医療基礎	杉山 剛	19
プレゼンテーション演習	青木 耕大	20
就職講座A	田邊 悦子	21
社会人基礎力Ⅴ	生越 雅志	22
社会人基礎力Ⅵ	生越 雅志	23

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校長 鳥居 高之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいますからです。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるのでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※路上はもちろん、駐車場やマンション共用部などの私有地での喫煙は地域の方に大変な迷惑をかけることとなります。

絶対にやめてください。(懲戒処分の対象となります)

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され過料(2,000円)の対象です

交通ルール

3号館前の大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。 takatorii@mitsuhashi.ac.jp

以上

評価について

- (1) 評価とは成績証明書にS～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

S	90以上
A	80～89
B	50～79
C	40～49
D	39以下

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

GPA(Grade Point Average)

GPAとは、学生の成績の平均値を表したもので学期ごとにGPAを算出する。算出方法は以下の通り科目の評価(S～Dの5段階)に応じて、4.0～0.0の得点(GP)を設定し、科目ごとの得点(GP)に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の総単位数で割り、少数点第二位を四捨五入したものをGPAとする。

なお、GPAを算出するタイミングは各学期の成績発表時点とする。その時点で評価がDの科目のGPは、後日再試験に合格していても0.0となる。

GPA = 【GP × 履修科目の単位数】の合計 / 履修科目の総単位数

出欠席ルール

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回(1年生はSHR分の遅刻1回を含む)で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する
 - ・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻1」※SHRは1年生のみ
 - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
 - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
 - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1+遅刻1」
※90分授業の前半45分の欠課1、後半15分までの遅刻1という考え方でカウントする
 - ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 年間55日の欠席で進級停止、退学勧告。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積10日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積10日になった時点で行う。
3	累積25日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積25日になった時点で行う。
4	累積40日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積50日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積55日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・1ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

卒業認定

以下の条件に基づき学校長と教職員による卒業判定会議を経て学校長に認められた者について卒業を認定する

- (1) 履修した全ての科目において単位修得していること
- (2) 原則として各年度において年間55日以上欠席がないこと

FJBネットID登録とメールアドレス

1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

2. メールアドレスについて

(1) 科によってメールアドレスが設定されています。

詳細は担任から説明があります。

(2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。

(3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不必要なメールはこまめに消去してください。

3. 緊急連絡について

クラスの諸連絡、台風や大雪等の休校等の連絡はグループコミュニケーションツールを使用します。(スマートフォンでも使用可能)各自、常に最新の投稿を確認するようにしてください。投稿を確認していない場合、自己責任です。またツールを使用する環境がない場合は担任に申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃(清掃時間を入り口に掲示)が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

3. 本校のパソコンに、ゲーム(その他ソフト)をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。(卒業研究等、必要な場合を除く)

6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやシャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。

また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針（プライバシーポリシー）を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
 - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
 - (2) 就職指導、企業紹介、就職活動支援を行うため
 - (3) 入学相談および募集活動を行うため
 - (4) 入学選考試験業務を行うため
 - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
 - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
 - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
 - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
 - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
 - (4) 職業紹介で応募を希望する求人先に対し、応募情報の提供
 - (5) 職業紹介で求職者に開示の許諾を得た業務提携先に対し、応募情報の提供
 - (6) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
 - (7) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
 - (8) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之
047-425-1051
takatorii@mitsuhashi.ac.jp

こども学科	3年
-------	----

【前期】

科目	幼児と健康	分類	専門科目、必修科目
担当	向家 真広		
テキスト (出版社)	講義ごとに必要な時に資料を配布		
参考資料	幼児期の運動に関する指導参考資料(文部科学省)、幼児体育 応用編(日本幼少年体育協会)など		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
身体を動かすこと、運動遊びの重要性を知り、運動指導の方法論を学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
対象年齢を考慮したうえで、個々の発育発達に合わせて、運動遊びの環境設定を想定できるようになる。
3. 注意点・要望
自ら学ぶ姿勢を持ち、人の話を聞き、自分の意見を主張していけることを期待しています。毎回運動できるように動ける服装で受講してください。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	こどもと運動	こどもと運動についての意義・発達との関連性(こどもの現状と社会的背景)
2	乳児期～幼児期の発育発達と運動	乳児期～幼児期の発育発達の原理とそれに伴う運動遊びを知る
3	コーディネーション運動	コーディネーション運動の基礎知識を学び、遊びの幅を広げる
4	身体を使った運動遊び	身体を使った運動遊びを経験し、習得する
5	マット、鉄棒、跳び箱を使った運動遊び	マット、鉄棒、跳び箱を使った運動遊びを行い、習得する
6	ボールを使った運動遊び	ボールを使った運動遊びを経験し、習得する
7	身近なものを使った運動遊び	新聞紙や段ボール、風船、縄など身近なものを使った運動遊びを経験し、習得する
8	様々な運動遊び 指導演習	今まで習得した運動遊びを組み合わせて実際に指導実践をする
9	グループワーク	幼児体育についての情報収集
10	グループワーク	グループごとに発表
11	指導計画	運動遊びのテーマ検討
12	指導計画	運動遊びの情報収集(グループワーク)
13	指導計画	運動遊びの情報収集(姉妹園)
14	指導計画	グループ内で個人ごとに発表
15	指導計画の遂行	子どもたちに対して、高評価だった指導計画を遂行してみる
16	指導計画の遂行	子どもたちに対して、高評価だった指導計画を遂行してみる

備考	現在、本校姉妹園にて幼児体育を指導している教員が、その経験を活かして講義・指導を行う。
----	---

こども学科	3年
-------	----

【前期】

科目	音楽総合 I	分類	専門科目、必修科目
担当	中川 菜穂・三田 麻矢佳・谷田 扶実子		
テキスト (出版社)	ポケットいっぱいのおた		
参考資料	ピアノ名曲集		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	20%	0%	40%	20%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要
子どもの歌の弾き歌いを中心に教育現場での実践的な演奏方法を身につける。演奏技術にとどまらず表現豊かに演奏する
2. 授業の目標(検定取得など)
音楽の基本である楽しさを子どもたちに伝えるように表現する
3. 注意点・要望
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	春の歌弾き歌い	ピアノ演習
2	春の歌弾き歌い	ピアノ演習 4月の課題曲マンスリーチェック
3	春の歌弾き歌い	ピアノ演習
4	春の歌弾き歌い	ピアノ演習 5月の課題曲マンスリーチェック
5	春の歌弾き歌い	ピアノ演習
6	春の歌弾き歌い	ピアノ演習
7	春の歌弾き歌い	ピアノ演習
8	夏の歌弾き歌い	ピアノ演習
9	夏の歌弾き歌い	ピアノ演習
10	夏の歌弾き歌い	ピアノ演習
11	夏の歌弾き歌い	ピアノ演習 6月の課題曲マンスリーチェック
12	夏の歌弾き歌い	ピアノ演習 卒業研究発表会で弾く曲の選曲をする
13	夏の歌弾き歌い	ピアノ演習 卒業研究発表会で弾く曲の選曲をする
14	音彩の会リハーサル	コンサートに向けて演奏の仕上げる 子どもたちを迎える準備をする
15	子どもたちを迎えてコンサート	コンサートホールで演奏し音楽のもたらす美しい音色の空間をみんなで共感しあう

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	3年
-------	----

【後期】

科目	音楽総合Ⅱ	分類	専門科目、必修科目
担当	中川 菜穂・三田 麻矢佳・谷田 扶実子		
テキスト (出版社)	ポケットいっぱいのおた		
参考資料	ピアノ名曲集 ブルクミラー		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	20%	0%	40%	20%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要
子どもの歌の弾き歌いを中心に教育現場での実践的な演奏方法を身につける 演奏技術にとどまらず表現豊かに演奏する
2. 授業の目標(検定取得など)
音楽の基本である楽しさを子どもたちに伝えるように表現する
3. 注意点・要望
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む	各自選んだ曲に取り組む
2	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む	各自選んだ曲に取り組む
3	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む	9月課題曲のマンスリーチェック
4	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	各自選んだ曲に取り組む 合唱曲を選ぶ
5	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	各自選んだ曲に取り組む
6	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	各自選んだ曲に取り組む
7	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	10月課題曲のマンスリーチェック
8	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	各自選んだ曲に取り組む
9	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	各自選んだ曲に取り組む
10	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	各自選んだ曲に取り組む
11	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	11月課題曲のマンスリーチェック
12	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	各自選んだ曲に取り組む
13	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	12月課題曲のマンスリーチェック
14	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	各自選んだ曲に取り組む
15	秋の歌弾き歌い 自分で選んだ大曲に取り組む 合唱	各自選んだ曲に取り組む
16	子どもたちを迎えてコンサート	コンサートホールで演奏し音楽のもたらす美しい音色の空間をみんなで共感しあう

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	3年
-------	----

【前期】

科目	子育て支援	分類	専門科目、必修科目
担当	南部 愛子		
テキスト (出版社)	授業中に適宜配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
保育士による子育て支援の意義と基本
2. 授業の目標(検定取得など)
3. 注意点・要望
夏見台幼稚園に集合する場合もあるので注意
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	子育て支援とは	子育て支援室の見学
2	〃	0歳の親子の様子・乳児保育の様子
3	〃	1歳の親子の様子(0歳児・1歳児)
4	現在の子育ての実態	子育ての悩みは何か
5	〃	〃
6	子育てはなぜ困難になったのか	子育て環境の変化
7	〃	社会環境(地域・学校・家庭)
8	〃	自然環境(こどもの遊ぶ場が無くなる)
9	〃	子どもの心身の発達の変化
10	子育て支援室の内容	年齢別体制を設定
11	〃	0歳児 ベビーマッサージ・離乳食講座
12	〃	0歳児の遊び
13	〃	1歳児 年齢にあった楽しい遊び場を設定
14	〃	2歳児 親子で楽しんでもらうなかで母の悩みを聞く場をつくる
15	〃	親子体操
16	子育て家庭のさまざまなニーズ	多様な支援の展開と子育て支援の現状課題について理解する

備考	公立保育園園長、本校姉妹園の園長として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う
----	--

こども学科	3年
-------	----

【後期】

科目	保育のためのパソコン技術	分類	専門科目、必修科目
担当	青木 耕大		
テキスト (出版社)	保育者のためのパソコン講座(萌文書林)		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
保育のためのパソコン入門、Office演習で培った知識をもとに、保育現場での実務を想定したより実践的なパソコン技術を学ぶ。
2. 授業の目標(検定取得など)
保育者として社会に出た際に、自身の力でパソコンの使いこなせるようになる。
3. 注意点・要望
授業内での課題の成果で評価します。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス・タイピング	授業の進め方・タイピング
2	Excel実務	保育現場の活用事例を元にExcelを活用する
3	Excel実務	〃
4	Excel実務	〃
5	運動会のプログラム作成	Wordを活用し、運動会のプログラムを作成する
6	運動会のプログラム作成	〃
7	遠足のしおり作成	Wordを活用し、遠足のしおりを作成する
8	遠足のしおり作成	〃
9	Excel実務	保育現場の活用事例を元にExcelを活用する
10	Excel実務	〃
11	壁新聞作成	Wordを活用し、壁新聞を作成する
12	壁新聞作成	〃
13	壁新聞作成	〃
14	動画編集	動画を企画し撮影・編集をする
15	動画編集	〃
16	動画編集	〃

備考	
----	--

こども学科	3年
-------	----

【前期】

科目	保育・教職実践演習Ⅱ	分類	専門科目、任選科目
担当	三田 麻矢佳・中川 菜穂・津田 聡子		
テキスト (出版社)	必要に応じて資料を配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
実践を通して保育者としての資質を高めていく
2. 授業の目標(検定取得など)
教育・保育実習へ向けて乳幼児の理解を深める
3. 注意点・要望
保育現場や子どもたちの姿をイメージしながら授業に臨んでほしい
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	実習指導案について	指導案を作成する
2	実習指導案について	指導案を作成する
3	実習指導案について	指導案をもとにシミュレーションをする
4	実習指導案について	指導案をもとにシミュレーションをする
5	保育実習	実際に子どもたちと関わり、自身の計画をもとに保育を行う
6	保育実習	実際に子どもたちと関わり、自身の計画をもとに保育を行う
7	保育実習	実際に子どもたちと関わり、自身の計画をもとに保育を行う
8	保育実習	実際に子どもたちと関わり、自身の計画をもとに保育を行う
9	振り返り	実践後の振り返りを行い、自身の保育を見つめ直す
10	郊外学習	船橋市の公共施設に行き必要な知識を得ると共に引率の仕方を学ぶ
11	郊外学習	船橋市の公共施設に行き必要な知識を得ると共に引率の仕方を学ぶ
12	保育における環境構成	実践を通して保育室の環境構成について学ぶ
13	保育における環境構成	実践を通して保育室の環境構成について学ぶ
14	保育における環境構成	実践を通して保育室の環境構成について学ぶ
15	保育における環境構成	実践を通して保育室の環境構成について学ぶ
16	保育における環境構成	実践を通して保育室の環境構成について学ぶ

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	3年
-------	----

【後期】

科目	保育・教職実践演習Ⅲ	分類	専門科目、任選科目
担当	中川 菜穂・津田 聡子・三田 麻矢佳		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	50%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要
3年間能力学びの集大成 演習を通して子どもの育ちと保育者の心持を学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
子どもたちの心をとらえる作品を作り現場で演じる
3. 注意点・要望
学生一人一人が自分に課題を持ちながら進めていくことを望む
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	協同的なあそびについて	一人一人の役割の理解 共通のイメージについて
2	劇のテーマ	話し合い
3	劇のテーマ	話し合い
4	劇の組み立て	子どもたちに伝えたいことを実践の中から見出す
5	劇の組み立て	子どもたちに伝えたいことを実践の中から見出す
6	劇遊び演習	絵本から題材を選び劇の脚本を作る お話のイメージの共有をする
7	劇遊び演習	一人一人が役割を持ちみんなで一つの作品を作り上げる
8	劇遊び演習	一人一人が役割を持ちみんなで一つの作品を作り上げる
9	劇遊び演習	一人一人が役割を持ちみんなで一つの作品を作り上げる
10	劇遊び演習	一人一人が役割を持ちみんなで一つの作品を作り上げる
11	劇遊び演習	一人一人が役割を持ちみんなで一つの作品を作り上げる
12	劇遊び演習	一人一人が役割を持ちみんなで一つの作品を作り上げる
13	保育現場での実践	実践を通して学びを深める
14	振り返り	子どもの反応を基に振り返りをし、改善する
15	劇遊び演習	実践を通して学びを深める
16	劇遊び演習	実践を通して学びを深める

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	3年
-------	----

【前期】

科目	保育実習事前事後指導応用	分類	専門科目、任選科目
担当	津田 聡子		
テキスト (出版社)	保育所保育指針		
参考資料	保育士のための書き方講座、保育者のための児童家庭福祉データブック、実習の日誌と指導案		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
保育実習Ⅱ または 保育実習Ⅲのための準備と、実習内容の質の向上のための学習
2. 授業の目標(検定取得など)
指導案作成により部分・責任実習を行う 質の高い実習を行う
3. 注意点・要望
実習だからこその学びについての目標をしっかり持ち望む
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	実習の目的と意義	実習の概要 自己評価について 前回の実習の振り返り
2	事前学習	自身の実習先を熟知する
3	保育実習内容	指導案の必要性を知り、部分・責任実習について学ぶ
4	実習日誌作成	計画・目標等実習日誌を個々で作成する
5	オリエンテーション概要	オリエンテーションの事前準備、事後からの実習へ向けてをまとめる
6	指導案作成	書き方を学ぶ 様々な年齢の保育内容の事例をもとに自身の指導案を作成
7	指導案作成	書き方を学ぶ 様々な年齢の保育内容の事例をもとに自身の指導案を作成
8	実習演習	指導案をもとに部分実習演習
9	実習演習	指導案をもとに部分実習演習
10	実習演習	指導案をもとに部分実習演習
11	実習演習	指導案をもとに部分実習演習
12	書類の書き方	計画・記録の必要性を学び実際の様子を見ながら実習ノートを書くポイントを復習
13	書類の書き方	計画・記録の必要性を学び実際の様子を見ながら実習ノートを書くポイントを復習
14	書類の書き方	計画・記録の必要性を学び実際の様子を見ながら実習ノートを書くポイントを復習
15	実習反省・報告	実習総括と自己反省を行う
16		

備考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	------------------------------------

こども学科	3年
-------	----

【前期】

科目	卒業研究 I	分類	専門科目、必修科目
担当	生越 雅志・青木 耕大・津田 聡子		
テキスト (出版社)	自分の興味のある分野の専門書を見つけること		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	20%	0%	30%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

実習の中で感じた疑問、自分の興味のあるものを、専門書を読むことで深く自分で突き詰めていく。自分の知識や興味を深め、得意な分野をみつけて、豊かな保育者をめざす。

2. 授業の目標(検定取得など)

研究背景を仕上げ、参考になる文献や論文を見つけること。論文の展開を考えてスライドを作成し、構想発表会で発表をする。

3. 注意点・要望

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	スケジュール確認	1年間の流れや論文のルールを確認する
2	テーマ探し	キーワードを探し、興味のあるテーマを複数みつける
3	グループワーク	複数のテーマをグループではなしあい、意見交換をおこなう
4	研究テーマ決定	研究テーマを決定し、キーワードをあげる
5	研究背景作成	研究背景を書きはじめる
6	研究背景作成	研究背景を書きはじめる
7	文献と専門書探し	自分のテーマに沿った本や論文を探す
8	文献と専門書探し	自分のテーマに沿った本や論文を探す
9	研究背景・展望作成	実習の経験などもふまえて、研究背景を作成する
10	研究背景提出	実習の経験などもふまえて、研究背景を作成する
11	発表用原稿作成	構想発表会の準備をはじめる
12	スライド作成	発表用のスライドを作成する
13	スライド作成	発表用のスライドを作成する
14	構想発表会リハーサル	リハーサルをおこなう
15	構想発表会	発表をおこなう
16		

備考	
----	--

こども学科	3年
-------	----

【後期】

科目	卒業研究Ⅱ	分類	専門科目、必修科目
担当	生越 雅志・青木 耕大・津田 聡子		
テキスト (出版社)	自分の興味のある分野の専門書を見つけること		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	8
	20%	0%	30%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

実習の中で感じた疑問、自分の興味のあるものを、専門書を読むことで深く自分で突き詰めていく。自分の知識や興味を深め、得意な分野をみつけて、豊かな保育者をめざす。

2. 授業の目標(検定取得など)

文献を読み込み、考えをまとめて論文に仕上げる。スライドを作成し、プレ発表会と卒業研究発表会にて発表をする。

3. 注意点・要望

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	論文作成	テーマに沿って文献を読み込み、論文にまとめる
2	論文作成	テーマに沿って文献を読み込み、論文にまとめる
3	論文作成	テーマに沿って文献を読み込み、論文にまとめる
4	論文作成	テーマに沿って文献を読み込み、論文にまとめる
5	論文作成	テーマに沿って文献を読み込み、論文にまとめる
6	論文作成	テーマに沿って文献を読み込み、論文にまとめる
7	論文作成	テーマに沿って文献を読み込み、論文にまとめる
8	論文完成	テーマに沿って文献を読み込み、論文にまとめる
9	発表原稿作成	発表用の原稿を作成する
10	発表原稿作成	発表用の原稿を作成する
11	スライド作成	発表用のスライドを作成する
12	スライド作成	発表用のスライドを作成する
13	スライド作成	発表用のスライドを作成する
14	プレ発表会リハーサル	プレ発表会のリハーサルをおこなう
15	プレ発表会リハーサル	プレ発表会のリハーサルをおこなう
16	卒業研究プレ発表会	プレ発表会にて発表をおこなう

備考	
----	--

こども学科	3年
-------	----

【前期】

科目	現場学習応用	分類	専門科目、必修科目
担当	中川 菜穂・津田 聡子・三田 麻矢佳		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
・船橋市の公共施設に行き保育に必要な知識を得る ・園外保育の引率を学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
経験したことを伝えり力をつける ・現場に出てから役立つ知識を身に付ける
3. 注意点・要望
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス 実習に向けて	スタンプ台 ポンポン 野菜スタンプ
2	実習に向けての準備	指導案制作
3	実習に向けての準備	シミュレーション
4	実習に向けての準備	シミュレーション
5	実習に向けての準備	シミュレーション
6	実習に向けての準備	実習まとめ
7	実習報告会	実習で感じたことやエピソードを2年生に向けて話す
8	お散歩の留意点を学ぶ	子どもたちのお散歩に同行し留意点を学ぶ
9	保護者対応を学ぶ	保育士から朝の引継ぎ、帰りの受け渡しについての話を聞く
10	現場学習	船橋市の公共施設に行き必要な知識を得ると共に引率の仕方を学ぶ
11	現場学習	船橋市の公共施設に行き必要な知識を得ると共に引率の仕方を学ぶ
12	校外学習準備	アンデルセン公園について調べる
13	校外学習準備	アンデルセン公園について調べる
14	校外学習	アンデルセン公園
15	現場学習振り返り	振り返り
16		

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	3年
-------	----

【前期】

科目	子どもの保健応用	分類	専門科目、必修科目
担当	渡邊 寿代		
テキスト (出版社)	よくわかる子どもの保健(ミネルヴァ書房)		
参考資料	授業時、必要に応じて資料を配布		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
「子どもの保健」の応用演習
2. 授業の目標(検定取得など)
子どもの保健について全般的な学びを取得し、緊急時の対応など実践力を学ぶ
3. 注意点・要望
実習などを通して、保健に関する疑問点などを質問して欲しい。又、自分自身の健康管理も考えて欲しい。
4. 関連科目
子どもの保健

週	テーマ	内容
1	保健衛生・安全衛生対策①	保育指針より教育・保育施設における事故防止及び健康安全管理
2	保健衛生・安全衛生対策②	保育指針より感染症対策
3	体調不良時や傷害時の対応①	咳(喘息)、皮膚症状(発疹など)
4	体調不良時や傷害時の対応②	外傷時の手当て(熱傷、骨折、脱臼、擦過傷など)
5	体調不良時や傷害時の対応③	転倒・転落、熱性痙攣、異物混入など
6	個別配慮を必要とする子どもへの対応①	アレルギー総論
7	個別配慮を必要とする子どもへの対応②	食物アレルギー(エピペンも含む)
8	個別配慮を必要とする子どもへの対応③	小児喘息、アトピー性皮膚炎
9	個別配慮を必要とする子どもへの対応④	慢性疾患や障害を持つ子どもの保育や援助
10	子どもの精神保健①	子どもの生活環境と精神保健
11	子どもの精神保健②	虐待、子どものトラウマについて
12	母子保健と保育①	母子保健理論と保育所との連携
13	母子保健と保育②	母親のメンタルヘルス、育児環境と精神保健
14	子どもの生活習慣について	生活習慣病予防、健康づくりの配慮
15	保健活動の計画及び評価	保健計画の作成と活用について

備考	現在保育園で看護師として勤務しており、現場での実情も踏まえた実務的な知識を伝えたい。
----	--

こども学科	3年
-------	----

【後期】

科目	医療基礎	分類	専門科目、必修科目
担当	杉山 剛		
テキスト (出版社)	未定		
参考資料	授業の都度必要に応じて配布する		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
保育を行うにあたっての基本的な医療知識を、医療事務の教育課程で学習する
2. 授業の目標(検定取得など)
医科医療事務技能認定試験
3. 注意点・要望
テキスト、資料、プリントを忘れずに 欠席すると1項目がスッポリ抜けるのでリカバリーが難しい
4. 関連科目
子どもの保健、子どもの食と栄養

週	テーマ	内容
1	医療保険制度1	医療保険制度の概要
2	医療保険制度2	医療保険の給付
3	初診	初診料算定、加算項目、特例等
4	再診	再診料算定、加算項目、2科目外来診療料等
5	処置1	一般、救急、皮膚科、泌尿器科
6	処置2	産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、ギプス、栄養
7	手術	手術料算定、共通加算、薬剤料、手術医療機器等加算、材料料等
8	輸血・麻酔	輸血量算定、輸血管理料等 麻酔料、神経ブロック料
9	検査1	検体検査
10	検査2	生体検査
11	検査3	病理診断
12	注射	注射料算定、薬剤料、皮内・皮下及び筋肉、静脈内、その他(点滴等)
13	投薬	薬剤基礎知識、内服薬、頓服薬、外用薬、院内処方
14	画像診断	エックス線診断料、コンピュータ断層撮影診断料
15	総合演習1	問題演習とレセプト点検
16	総合演習2	問題演習とレセプト点検

備考	
----	--

こども学科	3年
-------	----

【前期】

科目	プレゼンテーション演習	分類	教養科目、必修科目
担当	青木 耕大		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
自分の考えをまとめ、しっかりと話ができる力をつける。
2. 授業の目標(検定取得など)
自分の考えをわかりやすく相手に伝える能力を身につけ、後期の卒業研究発表に活かす。
3. 注意点・要望
授業内の取り組みや課題の成果で評価します。
4. 関連科目
卒業研究 I

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方 プレゼンテーションとは何か
2	理想の話し方・伝え方	内容・構成 声の大きさ 身振り手振り
3	プレゼンテーションの組み立て方	プレゼンテーションの作り方と構成
4	プレゼンテーションの内容設計	プレゼンテーションの具体的な流れ
5	資料作成の方法	プレゼンテーションのツール
6	プレゼンテーションソフトの活用	PowerPointの操作方法
7	スライドデザイン①	文字 色 オブジェクト
8	スライドデザイン②	アニメーション 画面切り替え
9	発表方法	印象を良くする姿勢と言葉
10	練習方法	原稿作成 制限時間の使い方 質疑応答の対応
11	プレゼンテーション準備①	スライド作成・発表練習
12	プレゼンテーション準備②	スライド作成・発表練習
13	プレゼンテーション準備③	スライド作成・発表練習
14	プレゼンテーション準備④	スライド作成・発表練習
15	プレゼンテーション実践・発表	発表・評価
16	まとめ	発表の振り返りと総評

備考	
----	--

こども学科	3年
-------	----

【前期】

科目	就職講座A	分類	教養科目、必修科目
担当	田邊 悦子		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	30%	30%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要
就職活動の流れを知り、自己分析や職場研究ができる力を身につける 内定をいただくためにやるべきこと、必要なことを考え、具体的なアクションに繋げる
2. 授業の目標(検定取得など)
①履歴書の完成 ②自己PRの完成 ③面接での質問に対する回答の整理 ④就職活動における基本マナーの習得
3. 注意点・要望
自分が理想とする職場、自分を必要としてくれる職場の両方に目を向ける意識を持ちましょう 社会人として働くことに前向きな気持ちを持って取り組んでください
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	第一印象の重要性と今すべき準備	ともに働きたい人、新卒採用の特権、今すべき準備、求める人物像の違い、方針の違い、自分に合う職場とは、授業の目的
2	就職活動の時期と求人票	就職活動の時期、求人情報の確認、保育園と幼稚園の違い 設置主体・運営主体の違い、選考試験の内容、選考試験のに向けて必要な準備
3	履歴書の作成	履歴書とエントリーシート、書き方のポイント、 学校指定フォーマットでの履歴書作成
4	面接試験で聞かれること	面接官の視点で考えてみる(グループディスカッション)、履歴書の活用
5	保育の現場を知る(1)	幼稚園教育実習
6	保育の現場を知る(2)	幼稚園教育実習
7	自己PRの作成	自己PRのポイントと構成、気をつけたい言葉
8	面接対策(1)	メラビアン法の法則、ハロー効果、面接での評価ポイント、面接での質問内容、 面接対策のポイント
9	面接対策(2)	質問への回答の整理(面接対策シートにまとめる)
10	保育の現場を知る(3)	保育園保育実習
11	保育の現場を知る(4)	保育園保育実習
12	メールと電話	電話の基本、メールの基本、メールの宛先、Gmailの設定、署名、送信テスト
13	成果物のブラッシュアップ	履歴書・自己PR・メールの返却、修正作業
14	成果物のブラッシュアップ	履歴書・自己PR・メールの返却、修正作業
15	こども達に伝えるべきこと	人類の進化、日本が目指すべき未来の姿、よりよい世界を目指すための取り組み IT技術の進化による影響、理想の未来、社会と信用、集団の特性
16	前期試験期間	

備考	IT関連の業務経験、就職指導経験(職業紹介責任者)、育児経験のある職員が、その経験に基づいて、就職活動全般及び個別の事例について、講義と指導を行う
----	---

こども学科	3年
-------	----

【前期】

科目	社会人基礎力V	分類	教養科目、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
机上では学べないものを、自ら体験を通して学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
保育現場で活かせるスキルの習得をめざし、記録に残す
3. 注意点・要望
体験したものは、体験シートにまとめ提出のこと
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	1年間のスケジュール確認と社会人を見据えた心構え
2	新入生歓迎会準備	表現ダンス発表
3	新入生歓迎会	新入生歓迎会
4	実習報告会	自信の実習体験を後輩に向けて話す
5	実習準備	教育実習のための準備・制作など
6	実習準備	教育実習のための準備・制作など
7	実習準備	教育実習のための準備・制作など
8	実習準備	教育実習のための準備・制作など
9	実習準備	教育実習のための準備・制作など
10	実習準備	教育実習のための準備・制作など
11	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える
12	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える
13	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える
14	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える
15	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える
16	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える

備考	
----	--

こども学科	3年
-------	----

【後期】

科目	社会人基礎力VI	分類	教養科目、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
机上では学べないものを、自らの体験を通して学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
保育現場で活かせるスキルの習得をめざし、記録に残す。
3. 注意点・要望
体験したものは、体験シートにまとめ提出のこと
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える
2	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える
3	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える
4	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える
5	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える
6	若幸祭準備	若幸祭にむけて企画を考える
7	若幸祭反省	若幸祭の反省
8	卒業研究	
9	卒業研究	
10	もちつき大会を企画する	もちつき大会を企画する
11	もちつき大会を企画する	もちつき大会を企画する
12	もちつき大会	もちつき大会を実行する
13	卒業研究	
14	卒業研究	
15	卒業研究	
16	卒業研究	

備考	
----	--